

古文ドリル：「し」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「し」の正体（5パターン）

古文の「し」は識別問題の頻出テーマ。大きく **5種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 過去の助動詞「き」連体形「し」	連用形接続	下が体言/「ぞ・なむ・や・か」結び	行きし人／ありけるし所
② サ変動詞「す」連用形「し」	一語のサ変	「す」一語の活用	旅行しけり／勉強したり
③ 副助詞「し」	強調	取り除いても文意が通る	我し思へば／ありとあらゆるし
④ 形容詞シク活用 連用形「～しく」	形容詞	「悲しく」「美しく」など	悲しく泣く／美しく咲く
⑤ 形容詞ク活用 終止形「し」	形容詞	「美し」「高し」など終止	月清し／山高し

識別の鉄則

- 直前の語の活用形を見る
- 連用形＋「し」→ 過去「き」連体形
- サ変動詞「す」一語 → サ変連用形
- 下接語を見る
- 「し」＋体言 → 過去「き」連体形
- 「し」＋「ぞ・なむ・や・か・こそ」 → 過去「き」連体形（係り結び）
- 副助詞「し」は取り除いても文意が通る（強調用法）
- 形容詞のシク活用連用形は「～しく」の「く」が省略される稀な形でなく、通常は「～しく」のまま
- 形容詞ク活用終止形「し」は文末で「～である」と訳せる

最初の20問はこの5パターンの基礎、後半に進むにつれて 過去「き」と完了「つ」の絡み、係り結び、入試レベルへ進みます。

🎯 解き方のコツ (時短テクニック)

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「し」の後ろを最初に見る (鉄板8割パターン)

「し」が出てきたら、まず **直後** に視線を飛ばす。 - 後ろが体言 (名詞) → ほぼ **過去「き」連体形** (例: 行きし人 / 散りし桜) - 後ろが「か / かど / かば」 → 「**しか**」一語、**過去已然形** (例: 行きしかば) - 文末で句点 → **形容詞ク活用終止形** (例: 月清し。山高し。)

ここまでで8割は片付きます。

コツ② 「～し+けり / たり / たまふ / ぬ」が来たら即サ変連用形

「し」の直前が漢語2字以上 (旅行・勉強・出仕・結婚・食事) + 直後が助動詞や敬語なら、**サ変動詞「す」の連用形「し」**。 - 旅行しけり / 勉強したり / 出仕したまふ → 全部サ変連用形

「漢語+し+助動詞」の並びを見たら反射で答える。

コツ③ 「し」を取って意味が通れば副助詞

「し」がどこに入っても文意が変わらない感じがしたら、**副助詞「し」** (強調) を疑う。 - 我し思へば → 「我思へば」でも通る → 副助詞 - 「のみし」「ばかりし」「ぞし」「なほし」 → 副助詞のサイン

「のみ・ばかり・なほ・いま」など、すでに強調語と組んでいたなら副助詞確定。

コツ④ 「～しき / ～しく」は形容詞シク活用の語幹の一部

「美しき」「悲しく」「久しく」のように「し」が**単独で切り出せない**ものは、形容詞シク活用の一部。 - これは「し」の識別問題というより、**ひっかけ**。冷静に「これは語幹だな」と気づくだけでOK。

試験本番でのチェック順序

1. 「し」の **直後** を見る (体言 / かば / 句点 / 引用「と」)
2. 体言が来てたら → 過去「き」連体形で確定
3. 「しか」と続いていたら → 過去「き」已然形で確定
4. 文末・句点なら → 形容詞ク活用終止形 (清し・高し・寒し)

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「漢語+し+助動詞」をサ変と気づけず過去にしてしまう (例: 旅行しけり)

- 「悲しき」「美しく」を「し」の識別と勘違いして答えてしまう（実はシク活用の語幹）
- 「ごとし」「あやなし」「ありがたし」など、**語末に「し」を含む形容詞・助動詞**を「し」の識別と混同する

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

5パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「し」を識別せよ。

昔、ありける男のこと。京に行きし人。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説**：「行き」は四段「行く」連用形。連用形+「し」、下が体言「人」→過去連体形。「行った人」。

Q2. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月清し。

答え：形容詞ク活用「清し」終止形 **解説**：「清し」（ク活用）の終止形。「月が清らかである」。文末で句点。

Q3. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅行しけり。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説**：「旅行す」（サ変複合動詞）の連用形「旅行し」+過去「けり」。「旅行した」。

Q4. 次の傍線部「し」を識別せよ。

悲しく泣く。

答え：形容詞シク活用「悲し」連用形語尾の一部 **解説：**形容詞「悲し」はシク活用。シク活用の活用は「(しく) /しく/し/しき/しけれ/〇」(基本形) または「しから/しかり/〇/しかる/〇/しかれ」(カリ活用)。連用形「悲しく」の「し」は活用語尾「しく」の一部であり、過去「き」連体形「し」とは別。「悲しく泣く」。

Q5. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我し思へば、なほ恋し。

答え：副助詞「し」 **解説：**「我し思へば」の「し」を取り除いても「我思へば」で意味は通る → 強調の副助詞。「私が思うから、やはり恋しい」。

Q6. 次の傍線部「し」を識別せよ。

京に住みし人。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「住み」連用形+「し」+体言「人」 → 過去連体形。「京に住んでいた人」。

Q7. 次の傍線部「し」を識別せよ。

山高し。

答え：形容詞ク活用「高し」終止形 **解説：**「高し」(ク活用)の終止形。文末。「山が高い」。

Q8. 次の傍線部「し」を識別せよ。

思案したり。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「思案す」サ変連用形「し」+存続「たり」。「思案していた」。 ※「勉強す」は近現代語の名詞性が強い熟語。古文では「思案す・案ず・心配す」など漢語+す型の例で学ぶ。

Q9. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我のみし知る。

答え：副助詞「し」 **解説：**「のみし」の「し」は強調の副助詞。「のみ」と重ねて強調。「私だけが知っている」。

Q10. 次の傍線部「し」を識別せよ。

風寒し。

答え：形容詞ク活用「寒し」終止形 **解説：**「寒し」（ク活用）の終止形。文末。「風が寒い」。

Q11. 次の傍線部「し」を識別せよ。

見し夢。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「見」は上一段「見る」連用形（同形）＋「し」＋体言「夢」→過去連体形。「見た夢」。

Q12. 次の傍線部「し」を識別せよ。

美しく咲く花。

答え：形容詞シク活用「美し」連用形「美しく」の語幹「美し」の「し」 **解説：**「美し」（シク活用）の連用形「美しく」＋動詞「咲く」＋体言「花」。「美しく咲く花」。

Q13. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帰りし人。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「帰り」連用形＋「し」＋体言「人」→過去連体形。「帰った人」。

Q14. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仕うまつりしこと。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「仕うまつり」連用形+「し」+体言「こと」→過去連体形。「お仕えしたこと」。

Q15. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我ぞし思ふ。

答え：副助詞「し」 **解説：**「我ぞ思ふ」でも意味が通る。「し」は強調の副助詞。「ぞ」と重ねて係り結びを強める。

Q16. 次の傍線部「し」を識別せよ。

念じ給ひしを思ふ。

答え：サ変動詞「念ず」連用形「念じ」(傍線部前)の終わり…ではなく過去「き」連体形「し」
解説：サ変動詞「念ず」連用形「念じ」+尊敬「給ふ」連用形「給ひ」+過去「き」連体形「し」+準体助詞「を」。「お念じになったのを思う」。連用形+「し」+準体「を」は過去「き」連体形。

Q17. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物悲しき秋の夕暮れ。

答え：形容詞シク活用「物悲し」連体形「物悲しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「物悲し」(シク活用)の連体形「物悲しき」+体言「秋」。「し」は語幹。※シク活用の場合、連体形は「～しき」となる。

Q18. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来し方。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「来(き)」カ変連用形+「し」+体言「方」→過去連体形。「過去の方面・来た方」。

Q19. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月夜清し。

答え：形容詞ク活用「清し」終止形 **解説：**「清し」(ク活用)の終止形。「月夜が清らかである」。

Q20. 次の傍線部「し」を識別せよ。

散りし桜。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「散り」連用形＋「し」＋体言「桜」。「散った桜」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21～Q50)

過去「き」と完了「つ」の絡み、サ変との見分け、係り結びを含む応用問題。

Q21. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

行きしかば、知らず。

答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」(原因) 解説：「行き」(四段連用)＋「しか」(過去「き」已然形)＋「ば」(原因)。「行ったので、知らない」。

Q22. 次の傍線部「し」を識別せよ。

美しく眠る。

答え：形容詞シク活用「美し」連用形「美しく」の語幹の一部「し」 解説：「美し」(シク活用)連用形「美しく」＋動詞「眠る」。「し」は語幹の一部であり、助動詞や独立した「し」ではない。「美しく眠る」。

Q23. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありし日。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 解説：「あり」ラ変連用形＋「し」＋体言「日」→過去連体形。「過ぎ去った日／在りし日」。

Q24. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いざ給へ、行かせたまへ。

答え：尊敬の助動詞「す」連用形「せ」（二重敬語） **解説：**「行か」（四段「行く」未然）＋尊敬「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」命令。「さあ、お行きなさいませ」。使役「す」の活用は「せ／せ／す／する／すれ／せよ」で、連用形は「せ」。

Q25. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物言ひし人ぞある。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「言ひ」連用形＋「し」＋体言「人」＋係助詞「ぞ」＋ラ変「ある」連体（ぞの結び）。「物を言った人がいる」。

Q26. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅しければ、疲れぬ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「旅す」サ変連用形「し」＋過去「けり」已然形「けれ」＋接続助詞「ば」（順接確定）。「旅をしたので、疲れた」。※「旅行す」は近現代の熟語。古文では「旅す」「歩み出づ」など。

Q27. 次の傍線部「し」を識別せよ。

風強し。

答え：形容詞ク活用「強し」終止形 **解説：**「強し」終止形。文末。「風が強い」。

Q28. 次の傍線部「し」を識別せよ。

思ひしことを書きとめぬ。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「思ひ」連用形＋「し」＋体言「こと」。「思ったことを書きとめてしまった」。

Q29. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春来しを知らず。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「来（き）」カ変連用形＋「し」＋準体助詞「を」（～ことを）。「春が来たことを知らない」。

Q30. 次の傍線部「し」を識別せよ。

悲しき朝。

答え：形容詞シク活用「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「悲し」（シク活用）連体形「悲しき」＋体言「朝」。「し」は語幹の一部。「悲しい朝」。シク活用の連体形は「～しき」。

Q31. 次の傍線部「し」を識別せよ。

雨降りし夜。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「降り」連用形＋「し」＋体言「夜」。「雨が降った夜」。

Q32. 次の傍線部「し」を識別せよ。

笛吹きし人。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「吹き」連用形＋「し」＋体言「人」。「笛を吹いた人」。

Q33. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我ばかりしおもふ。

答え：副助詞「し」 **解説：**「ばかり」（限定）＋「し」（強調）。「私だけが思う」。「し」を取り除いても文意が通る。

Q34. 次の傍線部「し」を識別せよ。

出仕したまふ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「出仕す」サ変連用形＋尊敬「たまふ」。「出仕なさる」。

Q35. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物言ひしかど、答へず。

答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説：**「言ひ」連用形＋「しか」（過去已然）＋「ど」。「物を言ったけれども、答えない」。

Q36. 次の傍線部「し」を識別せよ。

風の音聞こえし。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「き」の終止形は「き」、連体形は「し」、已然形は「しか」。文末「し」は、係り結びの結びとして、または余情・詠嘆の含みを残して文末に連体形「し」が来ることがある。ここも連体形。「風の音が聞こえたことだ」。

Q37. 次の傍線部「し」を識別せよ。

寝し夜。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「寝（ね）」下二段連用形＋「し」＋体言「夜」。「眠った夜」。

Q38. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅寝し所。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「旅寝す」（複合サ変）連用形「し」＋体言「所」。「旅寝した場所」。複合サ変動詞は古文頻出（旅寝す・物思ふ・物見す等）。

Q39. 次の傍線部「し」を識別せよ。

文を読みしこと。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「読み」連用形＋「し」＋体言「こと」。「文章を読んだこと」。

Q40. 次の傍線部「し」を識別せよ。

露こぼれし葉。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「こぼれ」下二段「こぼる」連用形＋「し」＋体言「葉」。「露がこぼれた葉」。

Q41. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あひ知りし人なり。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あひ知り」（複合動詞）連用形＋「し」＋体言「人」＋断定「なり」。「知り合いだった人である」。

Q42. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物書きし手。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「書き」連用形＋「し」＋体言「手」。「物を書いた手」。

Q43. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと美しき花。

答え：形容詞シク活用「美し」連体形「美しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「美し」（シク活用）連体形「美しき」＋体言「花」。「とても美しい花」。

Q44. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

風吹きしかば、波立ちぬ。

答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「吹き」（四段連用）＋「しか」（過去「き」已然形）＋「ば」（原因）＋「立ち」（四段連用）＋完了「ぬ」。「風が吹いたので、波が立った」。

Q45. 次の傍線部「し」を識別せよ。

都に住みし頃。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「住み」連用形＋「し」＋体言「頃」。「都に住んでいた頃」。

Q46. 次の傍線部「し」を識別せよ。

御所に参りし朝。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「参り」連用形+「し」+体言「朝」。「御所に参った朝」。

Q47. 次の傍線部「し」を識別せよ。

知りし事。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「知り」連用形+「し」+体言「事」。「知っていたこと」。

Q48. 次の傍線部「し」を識別せよ。

答へし人。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「答へ」下二段「答ふ」連用形+「し」+体言「人」。「答えた人」。

Q49. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仕うまつりしかな。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「仕うまつり」連用形+「し」+詠嘆「かな」(連体形接続)。「お仕えたことだなあ」。

Q50. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いまし思ふ。

答え：副助詞「し」 **解説：**「いま」(=今)+「し」(強調)。「今こそ思う」。「し」を取れば「いま思ふ」で文意は通る。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

係り結び・敬語・引用が絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありと聞きしものを、見ねば信ぜず。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「聞き」連用形＋「し」＋準体助詞「もの」＋逆接「を」。「あると聞いていたのに、見ないので信じない」。

Q52. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春来しかど、花咲かず。

答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋逆接「ど」 **解説：**「来（き）」カ変連用形＋「しか」（過去已然）＋「ど」。「春が来たけれども、花が咲かない」。

Q53. 次の傍線部「し」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありしやなしや。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」連用形＋「し」＋係助詞「や」＋「なし」＋係助詞「や」。「あったか、ないか」。伊勢物語の歌の改変。※原歌は「ありやなしや」だが、過去形入りなら「ありしやなしや」となる。

Q54. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行幸したまひしことあり。

答え：①前の「し」＝サ変動詞「す」連用形 ②後の「し」＝過去の助動詞「き」連体形 **解説：**「行幸し」（サ変連用）＋尊敬「たまひ」連用＋過去「き」連体「し」＋体言「こと」。「行幸なさったことがある」。

Q55. 次の傍線部「し」を識別せよ。

心ぞ思ひし。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「思ひ」連用形＋「し」、係助詞「ぞ」の結び（連体形）。「心で思ったのだ」。

Q56. 次の傍線部「し」を識別せよ。

言ひし人とこそ思へ。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「言ひ」連用形＋「し」＋体言「人」＋引用「と」＋係助詞「こそ」＋已然形「思へ」（こそこの結び）。「言った人だと思うのだ」。

Q57. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あはれと思ひし人。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**形容動詞「あはれなり」語幹＋引用「と」＋「思ひ」連用＋「し」＋体言「人」。「しみじみと思った人」。

Q58. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春の夜の夢ばかりなる手枕に、かひなくたたむ名こそ惜しけれ——この歌、誰が詠じしぞ。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**サ変「詠ず」連用形「詠じ」＋過去「き」連体形「し」＋係助詞「ぞ」（疑問）の結びとして連体形。「この歌は誰が詠んだのか」。※元歌：周防内侍「春の夜の夢ばかりなる手枕にかひなくたたむ名こそ惜しけれ」（千載和歌集／百人一首67番）。

Q59. 次の傍線部「し」を識別せよ。

名にし負ふ。

答え：副助詞「し」 **解説：**「名に」＋「し」＋「負ふ」。「し」は強調の副助詞。「名にし負はばいざ言問はむ」の有名表現。「名前として持っているならば」。

Q60. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月光清しと仰せらる。

答え：形容詞ク活用「清し」終止形 **解説：**「清し」終止形＋引用「と」＋尊敬「仰せらる」。「月の光が清らかだ、とお命じになる」。

Q61. 次の傍線部「し」を識別せよ。

都にとどまりし人なし。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「とどまり」連用形＋「し」＋体言「人」＋「なし」。「都にとどまった人はいない」。

Q62. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物食ひし所。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 or サ変「食ひす」連用形 **正答：**「食ひ」は四段「食ふ」連用形。「食ひし」は通常「過去き連体」と解する。「物を食った所」。

Q63. 次の傍線部「し」を識別せよ。

結婚したまふ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「結婚す」サ変連用形＋尊敬「たまふ」。「結婚なさる」。

Q64. 次の傍線部「し」を識別せよ。

人言ひしかど、無視せり。

答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋逆接「ど」 **解説：**「言ひ」連用＋「しか」＋「ど」。「人が言ったけれども、無視した」。

Q65. 次の傍線部「し」を識別せよ。

なほし思ふ。

答え：副助詞「し」 **解説：**「なほ」(＝やはり)＋「し」(強調)＋「思ふ」。「やはり強く思う」。「し」を取っても通る。

Q66. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物思ふ秋ぞ悲しき。

答え：形容詞シク活用「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「悲し」(シク)連体形「悲しき」＋係助詞「ぞ」の結び(連体形)。「物思ふ秋が悲しいのだ」。

Q67. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いみじく美しき。

答え：傍線部「し」は形容詞「美し」連体形「美しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「いみじく」（シク活用連用形）＋「美しき」（シク活用連体形）。「とても美しい」。

Q68. 次の傍線部「し」を識別せよ。

帰りしかな。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「帰り」連用形＋「し」＋詠嘆「かな」（連体形接続）。「帰ったことだなあ」。

Q69. 次の傍線部「し」を識別せよ。

嘆きし夜。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「嘆き」連用＋「し」＋体言「夜」。「嘆いた夜」。

Q70. 次の傍線部「し」を識別せよ。

山高しと聞く。

答え：形容詞ク活用「高し」終止形 **解説：**「高し」終止＋引用「と」。「山が高いと聞く」。

Q71. 次の傍線部「し」を識別せよ。

食事したまふ。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「食事す」サ変連用＋尊敬「たまふ」。「食事なさる」。

Q72. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありしやなしや。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」ラ変連用形＋「し」＋係助詞「や」＋「なし」＋係助詞「や」。「あったか、ないか」。

Q73. 次の傍線部「し」を識別せよ。

よかりしこと。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「よかり」（形容詞「よし」連用形）＋「し」＋体言「こと」。「よかったこと」。※ 形容詞連用形＋「き」は普通に成立。

Q74. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春雨降りしかど、花散らず。

答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」＋逆接「ど」 **解説：**「降り」連用＋「しか」＋「ど」。「春雨が降ったけれども、花は散らない」。

Q75. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我のみし怒り、人は笑へり。

答え：副助詞「し」 **解説：**「のみ」（限定）＋「し」（強調）。「私だけが怒り、人は笑っている」。

Q76. 次の傍線部「し」を識別せよ。

詠じし歌、世に伝はる。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 or サ変連用「し」 **正答：**「詠じ」（サ変「詠ず」連用形「詠じ」）＋過去「き」連体形「し」＋体言「歌」。「詠じた歌」。※ サ変動詞連用形＋過去「き」の組み合わせ。

Q77. 次の傍線部「し」を識別せよ。

散りし花、また咲くべし。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「散り」連用＋「し」＋体言「花」。「散った花、また咲くだろう」。

Q78. 次の傍線部「し」を識別せよ。

笛吹きしぞあはれなる。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 + 係助詞「ぞ」 **解説：**「吹き」連用 + 「し」 + 係助詞「ぞ」 + ナリ活用形容動詞「あはれなる」連体形（ぞの結び）。「笛を吹いた人がしみじみと趣ある」。

Q79. 次の傍線部「し」を識別せよ。

嘆き**し**かばこそ、目も赤かれ。

答え：過去の助動詞「き」已然形「しか」 + 「ばこそ」（強調確定） **解説：**「嘆き」連用 + 「しか」 + 「ばこそ」（～だからこそ）。下の「赤かれ」は形容詞「赤し」已然形（係助詞「こそ」の結び）。「嘆いたからこそ、目も赤いのだ」。

Q80. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あり**し**昔。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」連用 + 「し」 + 体言「昔」。「過ぎ去った昔」。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 次の傍線部「し」を識別せよ。

都にあり**し**人を思ひ出づるに、涙ぞこぼるる。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「あり」連用 + 「し」 + 体言「人」。「都にいた人を思い出すと、涙がこぼれる」。

Q82. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月の都に住み**し**人にやあらむ。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「住み」連用 + 「し」 + 体言「人」 + 断定「に」 + 係助詞「や」 + う変未然「あら」 + 推量「む」。竹取物語の文体。「月の都に住んでいた人なのであるうか」。

Q83. 次の傍線部「し」を識別せよ。

玉のごとし。

答え：比況の助動詞「ごとし」終止形 **解説：**「ごとし」（比況、～のようだ）の終止形。「玉のようだ」。形容詞ク活用に類する活用をする助動詞。※「し」が「ごとし」の一部であることに注意。

Q84. 次の傍線部「し」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人ありやなしやと（伊勢物語）——この歌、京を離れし男の心ぞあはれなる。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「離れ」下二段連用＋「し」＋体言「男」＋格助詞「の」＋体言「心」＋係助詞「ぞ」＋形容動詞「あはれなる」連体形（ぞの結び）。「京を離れた男の心がしみじみと趣がある」。

Q85. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いと尊しと人皆涙を流す。

答え：形容詞ク活用「尊し」終止形 **解説：**「尊し」終止＋引用「と」。「とても尊いと、人々が皆涙を流す」。

Q86. 次の傍線部「し」を識別せよ。

よしし思はじ。

答え：副助詞「し」 **解説：**「よし」（＝もう・たとえ）＋「し」（強調）＋打消推量「思はじ」。「もう絶対に思うまい」。「し」は気持ちを強める。

Q87. 次の傍線部「し」を識別せよ。

詠みし人多かれども、心に残るは少なし。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「詠み」連用＋「し」＋体言「人」＋形容詞已然「多かれ」＋逆接「ども」。「詠んだ人は多いけれども、心に残るのは少ない」。

Q88. 次の傍線部「し」を識別せよ。

我ぞ知る、唐土に渡りし人。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「渡り」連用+「し」+体言「人」。「中国に渡った人を、私こそ知っている」。

Q89. 次の傍線部「し」を識別せよ。

物したまふ御方。

答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「物す」（複合サ変、=いらっしゃる・行く・ある・する等の婉曲的表現）連用形「し」+尊敬「たまふ」連体形+体言「御方」。「いらっしゃる御方」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q90. 次の傍線部「し」を識別せよ。

あけぼのの空に消えし雲のごとし。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「消え」下二段連用+「し」+体言「雲」+比況「ごとし」。「明け方の空に消えた雲のようだ」。

Q91. 次の傍線部「し」を識別せよ。

来し方行く末、つらつら思ふに、悲しきこと多し。

答え：形容詞シク活用「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部「し」 **解説：**「悲しき」（シク連体）+体言「こと」+形容詞「多し」終止。「過去や未来をよくよく思うと、悲しいことが多い」。

Q92. 次の傍線部「し」を識別せよ。

仏に祈りしかひあり。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「祈り」連用+「し」+体言「かひ」（=甲斐）。「仏に祈った甲斐がある」。

Q93. 次の傍線部「し」を識別せよ。

ありがたしと人みな申しけり。

答え：形容詞ク活用「ありがたし」終止形 **解説：**「ありがたし」(=めったにない)終止+引用「と」。「めったにないと人々が皆申し上げた」。枕草子「ありがたきもの」の枕詞。

Q94. 次の傍線部「し」を識別せよ。

いみじく悲しき心地す。

答え：傍線部「し」=形容詞「悲し」連体形「悲しき」の語幹の一部 **解説：**「いみじく」(シク連用)+「悲しき」(シク連体)+体言「心地」+サ変「す」。「ひどく悲しい気持ちがする」。

Q95. 次の傍線部「し」を識別せよ。

旅寝し夜の夢のさめがてに、月見るほどぞあはれなる。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「旅寝」(名詞、または下二段「旅寝す」連用形)+過去「き」連体形「し」+体言「夜」+格助詞「の」+体言「夢」。「し」の直後が体言「夜」なので、過去「き」連体形で確定。「旅寝した夜の夢が覚めきれないうちに、月を見るほどがしみじみと趣がある」。

Q96. 次の傍線部「し」を識別せよ。

もろこしに渡りしかの僧、なほ我が国を恋ふ。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「渡り」連用+「し」+連体「かの」+体言「僧」。「中国に渡ったあの僧は、やはり我が国を恋しがる」。

Q97. 次の傍線部「し」を識別せよ。

言ひし人にぞ似たる。

答え：過去の助動詞「き」連体形「し」 **解説：**「言ひ」連用+「し」+体言「人」+格助詞「に」+係助詞「ぞ」+動詞「似たる」連体形(その結び)。「言った人に似ている」。

Q98. 次の傍線部「し」を識別せよ。

春の夜の闇はあやなし。

答え：形容詞ク活用「あやなし」終止形 **解説：**「あやなし」(=道理がない、わけがわからない)ク活用終止形。古今集の有名な歌「春の夜の闇はあやなし梅の花…」。「春の夜の闇は道理がない(梅

の花の色は見えないが香りは隠せない)」。

Q99. 次の傍線部「し」を識別せよ。

月夜よし、夜よしと人の告げしかば、出で見れば、げに明るし。

答え：①「よし」の「し」＝形容詞ク活用終止形 ②「告げしかば」の「し」＝過去「き」已然形「しか」の一部 **解説：** - 「よし」(ク終止) ×2:「月夜が良い、夜が良い」 - 「告げしかば」:「告げ」連用+「しか」(過去已然) + 「ば」(原因)。「告げたので」 全体:「月夜が良い、夜が良いと人が告げたので、出て見ると、本当に明るい」。

Q100. 次の傍線部「し」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。

答え：形容詞シク活用「久し」連用形「久しく」の語幹の一部「し」 **解説：**方丈記冒頭。「久しく」(シク連用) + 「とどまり」連用+「たる」(存続「たり」連体) + 体言「ためし」。「長くとどまっている例はない」。

入試レベル /20

合計 /100

あとがき

「し」の識別は、過去の助動詞「き」連体形が圧倒的に多い。 - 連用形+「し」+体言 → 過去連体 - 「しか」と続いたら過去已然形 - サ変「す」連用形は「～し+けり/たり」の形で頻出 - 副助詞は取り除いても文意が通る - 形容詞ク活用終止「し」は文末で「～である」と訳せる

接続を見れば9割は識別可能。残り1割は「ごとし」「いとし」「あやなし」など語幹に「し」を含む語との見分け。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太